



NEWS RELEASE

ヤマトホールディングス
ヤマト・スタッフ・サプライ株式会社
2020年3月26日

民間で初めて国土交通大臣の認定を取得した「運転適性診断システム」を刷新し、4月から運用を開始
～より簡単、かつ正確な診断で交通事故のない社会の実現に貢献します～

ヤマトホールディングス株式会社(本社:東京都中央区 代表取締役社長:長尾 裕)傘下のヤマト・スタッフ・サプライ株式会社(本社:東京都中央区 代表取締役社長:尾崎 幸嗣 以下「YSS」)は、「運転適性診断システム」を刷新し4月からの運用を開始します。まずは、ヤマト運輸の全国 88 カ所の主管支店に 100 台以上の機器を導入します。また、ヤマトグループ外の一般のお客さまについては、同社の研修センター(東京・愛知・大阪・福岡)にて新システムによる受診を開始します。

記

1. 背景

ヤマトグループは、『安全第一、営業第二』の精神を経営の根幹としています。その中でYSSは、2004年2月に民間企業として初めて国土交通大臣より運転適性診断の認定を取得し、以来、自動車運転事業者への運転適性診断事業を展開することで、より安全な社会の実現に向け取り組んでまいりました。一方で交通環境の変化により、危険場面や事故リスクは刻々と変化していることから、これに適応した精度の高い診断をより多くの運転者に提供するため、運転適性診断システムを刷新しました。

【参考：貨物自動車運送事業輸送安全規則および旅客自動車運送事業運輸規則】

バス、ハイヤー、タクシー、トラックなどの自動車運送事業者における運転者として新たに雇い入れた者、事故惹起者、65歳以上の運転者は国土交通大臣が認定する運転適性診断が義務付けられています。

■ **義務診断** 貨物自動車運送事業者および旅客自動車運送事業者に法律で受診が義務付けられています。

診断の種類	対象者	時期
初任診断	事業者が運転者として新たに雇い入れた者	＜貨物＞ 初めてトラックに乗務する前までに ＜旅客＞ 事業用自動車の運転者として選任する前までに
適齢診断	65才以上の運転者	65才に達した日以後1年以内 その後75才に達するまでは3年以内ごとに1回受診
特定診断I	事故惹起者	死者又は重傷者を生じた交通事故を引き起こし、 かつ、当該事故前の1年間に交通事故を引き起こしたことがない者 及び軽傷者を生じた交通事故を引き起こし、 かつ、当該事故前の3年間に交通事故を引き起こしたことがある者
特定診断II <small>※ヤマト・スタッフ・サプライでは現在対応していません。</small>		死者又は重傷者を生じた交通事故を引き起こし、 かつ、当該事故前の1年間に交通事故を引き起こしたことがある者

2. 新運転適性診断刷新のポイント

(1) 受診時間の短縮

これまでの当社が提供してきた運転適性システムでは、筆記テストや機械テストなど、テストごとに別々に受診をする必要がありましたが、新システムではひとつの診断機(PC)ですべて(※)の診断を完了できます。また、タッチパネルの採用で直観的な操作が可能になるため、これまで約2時間30分かかっていた受診時間は約1/3(約40分～60分)に短縮でき、受診者の拘束時間を大幅に軽減します。

※65歳以上の運転者の「適齢診断」には、別途夜間視力を測定する診断機が必要です。

(2) 事故予兆の精度向上

これまでの「性格テスト」「安全運転態度テスト」は、複数回受診することで問題に慣れてしまうことが課題でした。新システムでは、新たに項目反応理論を採用し、毎回出題される項目を変えながら、正確かつ比較可能な診断を可能にしています。また、両テストの出題内容を刷新することで、受診時の個人特性や状況から、性格・態度にある危険傾向をより把握できるようにし、的確なアドバイスのもと、事故の未然防止へとつなげます。

(3) 安全に関する業務効率化に

これまで紙の診断票で出力・保管していた診断結果を、データで抽出できるようにします。これにより事業者は、運転者の診断データ管理や、他のシステムとのデータ連携が可能となり、事業所責任者や安全管理担当者の業務効率化につながります。

(4) 受診拠点の拡大

診断機器を簡素化したことで、YSS と同じシステムをヤマトグループ外の各事業所へも簡単に導入し、運転適性診断を実施することを可能にし、事業者が自身の事業所で診断機器を導入でき、義務診断以外でも受診の機会が増え、社員の事故の未然防止へとつなげることができます。(10 月から展開予定)

3. 今後の展開

今回、新システムを導入した事業者へ、データ分析や診断結果の活用・解説講習を提供していきます。また、本システムとこれまでヤマトグループが培ってきた交通安全指導のノウハウを掛け合わせた、安全コンサルティング事業の展開、また、高齢運転者向け安全講習の商品化などを新たに展開していく予定であり、これらの取り組みを通じて、交通事故のない社会の実現に貢献していきます。

以上

▼診断機器一式(PC利用)



▼タッチパネルでの操作も可能に



▼受診の様子



▼診断の流れ

検査 1. 視力テスト

「静止視力 + 動体視力」の測定します。
※高齢者（65歳以上）の方は、別途視力計にて
「夜間視力」を測定します。

検査 2. 行動面テスト

運転行動（認知・判断・操作等）の正確性や
日頃の傾向を測定します。

判断動作のタイミング

動作の正確さ

注意の配分

検査 3 - 1. 性格テスト

性格特性をあらわす項目を測定します。

安定性

共感性

協調性

支持感

検査 3 - 2. 安全運転態度テスト

運転者の安全態度の傾向を測定します。

安全配慮

他者配慮

職務満足

検査 4. 危険感受性テスト

交通環境の状況把握の正確さ及び
その状況に対する判断・予測の妥当性を測定します。

【お問合せ先】

- ・報道機関の方： ヤマトホールディングス株式会社 コーポレートコミュニケーション戦略担当： 03-3541-4141
- ・一般・事業者の方： ヤマト・スタッフ・サプライ株式会社 第1事業推進部： 03-6671-8790